

「今日の外来診療」

健和会臨床疫学研究所所長 上 林 茂 暢
 みさと健和病院院長 三 浦 聡 雄
 柳原病院副院長 高 見 茂 人
 みさと健和病院副院長 宮 崎 康 編 集
 みさと健和病院内科部長 松 山 公 彦
 特定医療法人健和会顧問 川 上 武

佐賀医科大学助教授

福 井 次 矢

本書は、川上武先生の御指導のもと、みさと健和病院と柳原病院の先生方が中心となって、“わが国の土壌にねざした外来診療の技術的整理”を行ったものである。

本書を読んでみて強く感じることは、執筆者の先生方の問題意識にかなり共通性があり、外来診療に関わる種々の今日的な問題点がわかりやすく浮き彫りにされていることである。第1章外来診療のアプローチとシステム、第2章外来診療の進め方、第5章他疾患へのアプローチ（精神疾患、職業起因性・環境関連性疾患）、第6章往診の実際、などに、患者の立場を尊重し、有効で効率的な外来診療を実践するための具体的な指針を示すとともに、診療所・病院のシステム、病診連携、更には医療・社会システムというマクロからのアプローチも不可欠ことが随所に適切に述べられている。純粋に医学的な問題について、しかも、“医療者の側の芝生”で診療を受ける入院患者と異なり、外来患者は“患者自身の芝生”で医療を受け

る。したがって、外来医療には心理社会的な問題点、種々の医療行政に関わる問題点がとりわけ強く反映されるものである。本書には、そのような複雑な問題点につき、決して借り物でない、執筆者の先生方が直接日々の診療活動の中で捉えた視点から述べていることは特筆されるべきであろう。

本書の核となっている実際の外来診療の仕方も非常に要領よくまとめられている。第2章外来診療の進め方、第3章救急・急性疾患への対応、第4章慢性の経過をたどる疾患、第5章他疾患へのアプローチ、第7章小児疾患の外来診療などには、臓器系や個別的疾患への具体的なアプローチの仕方が示されている。外来で扱う頻度の高い疾患について、それぞれの自然経過の特徴を考慮し、どのレベルまでどのようにフォローアップすべきか、入院のタイミング、セルフ・ケアへのアドバイスなど、具体的にしかも簡潔に述べられている。

全体では560ページ以上の比較的

大部の書ではあるが、実際はかなり読みやすい。従来の教科書と比べると活字がやや大きめということもあるが、内容が網羅的でなく、重要な点に焦点がよく絞込まれているためであろう。

米国では、1970年前後のプライマリ・ケア再興の流れを受けて、1981年以降、外来診療についての優れた教科書が相次いで出版され、その多くは既に第2版を重ねている。わが国でも、医学書院から「プライマリ・ケア医学 包括医療実践のために」第2版が出されている。それらに比べると、「今日の外来診療」は、執筆者の先生方が実際に携わっている診療状況や医療に対する態度に共通性があるためか、単に必要時に繙いて調べるための本ではなく、通読できる、まとまりのある本となっている。

大変出来ばえのよい本であるが、強いて希望を述べさせていただくなら、参考文献の記載が欲しかったという点である。あらかじめよく検討されたうえで記載しないことになったものと思うが、内容が、経験に基づく執筆者の考えなのか、信頼しうる文献データに基づいているのか知ることができればもっとありがたい。

ともあれ、本書は真に“わが国の土壌にねざした外来診療”をまとめた労作であり、外来診療に携わるすべての医師が一読されることを心から願うものである。

B5 602頁 図111 写真6 1989
 定価8,446円(税込) 〒300

医学書院 刊